



中之町幼稚園だより

令和8年9月号
港区立中之町幼稚園
園長 酒井 正美

幼稚園に子供たちの元気な声が戻ってきました。夏休みの間には、大きな地震や豪雨といった災害がありました。関係の皆様には心よりお見舞いを申し上げます。

夏休みの間にぐんと背が伸び、少しお兄さんお姉さんの顔つきになった子供たち。夏休みの間、どんな経験をしてきたのでしょうか。先生や友達にたくさん話をしてほしいと思います。そして、つくったり描いたり、ごっこ遊びをしたりする中で、経験を思い出したり楽しいことをたくさん思いついたりして、たっぷりと遊んでほしいと思います。



夏季休業中、教員は休養をいただくと共に、保育室、教材室、倉庫の環境整備、記録の整理や教材準備を行いました。そして、それぞれ研修に臨み、自己研鑽をしてまいりました。直接、教育に関わること、間接的に関わることも含め、人格形成の基礎を培う幼児教育に携わる教員には、研究と修養が必要です。それぞれの学びを、教員間で共有しながら、2学期以降の園の教育に生かしていきたいと思っています。

『『日日是好日』(にちにちこれこうにち)』この言葉は、以前、映画のタイトルにもなりました。「毎日がよい日でありますように」という意味で使われることが多いようです。しかし、「毎日がよいことばかりではないが、悪い日もよき日と受けとる心、悪い日をよき日へと転ずる心があれば、毎日がよき日であるということ」との意味であるとも言われます。これは、日々子供たちに向き合う私たちにとり、大切にしたい姿勢であると考えています。

日常の些細な場面、例えば子供が石につまづいて転んだとき、私たち大人は、どのように子供に関わるでしょうか。

「痛かったね。ここに石があったんだ。この石がいけないね。」

「痛かったね。ここに石があったんだ。今度は気をつけようね。」

ほんの少しの違いかもしれませんが、経験を積み重ねることで成長する子供たちにとっては、大きな違いであると考えます。「痛かったね。」と辛い思いを受け止め、共感してくれる大人がいることは、子どもにとって、心癒され次への意欲につながる支えとなります。さらに、どうしたらよりよくしていけるのかを考え、背中を押してもらった子供は、困難を他人事や人のせいにせず、自分のこととして受け止め、挑戦し、進んでいくことができます。

遊びや生活の中には、楽しいことばかりではなく、その子なりに試行錯誤したり、挑戦したりすることがたくさんあります。うまくいかないこと、悔しいこともあります。子供たちが日々経験をする、楽しいことも、そうでもないことも、全てを子供たちの成長の糧としていけるように支えてあげたいと思います。

暑さの残る9月に始まり、年末までの長い2学期です。一人一人の子供たちの成長が大変楽しみです。早寝、早起き、朝ご飯、朝ウランチを実践し、元気な心と体で充実した2学期にしていきたいと思います。